

明 生



生徒の感想より ～ 研修旅行 ～

1組 宇田 沙来

貴重な3泊4日の旅を終えて、このコロナ禍ということもあり不安でいっぱいだったが、無事に帰ることができたのは研修旅行に携わってくださった方々のおかげであり感謝しています。

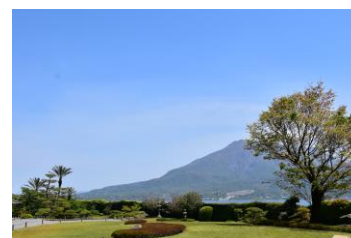
私は鹿児島に到着した瞬間、南国の光を感じた。辺りを見渡すとたくさんの南国の植物がありとても新鮮だった。鹿児島市内にはたくさんの鉄砲玉の跡やザビエルが到着した甲突川などの歴史的な文化、鹿児島市自体がカルデラの中にあるという地形がとても興味深く面白かった。1日目には早速桜島の噴火が見られた。さらに最終日には「へ」（火山灰）を被ることもできた。

知覧では特攻隊のことを学んだ。事前に母から私の祖父がパイロットであり、戦争開始時に教官となり、金鵒勲章や懷中時計などを持っていたことを教えてもらっていたため、さらに心に強く響いた。二度と戦争をしてはならない、罪のない人々を巻き添えにして決して平和にはならないということを学んだ。

選択研修では、私はトレッキングコースを選択した。絶対一人では脱落している。周りの友達の支えとガイドさんのおかげで、立派にそびえたつ縄文杉に会うことができた。世界自然遺産に足を付けた興奮、友達との協力のおかげか、今までの山登りの中で一番の感動と達成感があった。

また、自由散策ではバスで霧島に行った。とても優しい運転手さんに恵まれ、行く所行く所ひとつひとつ丁寧にガイドしていただいた。改めて鹿児島の人は全力で歓迎してくださるいい方たちが多くて感動した。みんなと行動するというメンバーの一人としての責任感など、一人では生きていけない、周りの人々のおかげだという感謝の気持ちが大きくなった。また、この旅では仲間の大切さがより深く理解できた。

本当に、今回の旅はたくさんの人々・仲間に恵まれて一生で最高の思い出となった。この感謝の気持ちをずっと忘れずに受験に挑みたい。また、この旅で理解を深めあった友達と一緒に受験と闘っていくにあたってライバル心も生まれ、全体的に向上できたらと思う。



2組 田中 南那

コロナ禍で、様々な問題・変更、たくさんの人の支えや努力があって実行できた今回の研修旅行。学年主任の古本先生と一緒に行けなかったことが、私は一番の心残り。人生最後の研修旅行ということで、行く前から本当に楽しみにしていた。

1日目の20日。朝から約4時間かけて新幹線で鹿児島へ、そしてバスや高速船を経て屋久島へ到着。ほぼ移動の1日だったが、友達と一緒にいる時間、窓から見える今まで見たことのない街の景色、すべてが新鮮でそれさえすごく楽しい時間だった。仙巖園で、桜島を見ながらの昼食は趣深かった。宿泊先、「まんてん」のコテージもドーム型ですごくお洒落だった。

2日目は選択研修。私は白谷白水峡に行った。早起きして、約2時間半かけて歩いて登って、辿り着いた目的地。道の途中にも神秘的ですごく素敵な自然がいくつもあって、それらをガイドさんがおもしろく、楽しく説明してくださって、辿り着くまでの道も、ガイドさんと友達のおかげですごく楽しかった。大変な道のりの後に見る景色はピカいちだった。何とも言い難い程、美しい木々や生物。忘れまいと写真に残したが、やはり写真には写しきれないものがあつた。だから、しっかり目に焼きつけた。肉眼で、しんどいを乗り越えた先にしか見られないものがあり、美しい景色も何十倍も美しく目に映った。午後からの安房川でリバーカヤックも初の体験だったが、すごく楽しくて、やはり普段見ることのできない景色、自力で辿り着いた景色は絶景だった。

3日目は屋久島に別れを告げ、昼からは知覧へ。終始、涙が止まらなかった。その涙は同情か、悲しみか、哀れみか、分からないが、今生きている私たち1人1人が、世界が平和になるように行動することが、戦争で亡くなった人たちにできる一番の弔いだと思う。

最終日の自由散策。私の班は、水族館や天文館の辺りを散策。短時間ではあったが、鹿児島を楽しんだ。そして、終わりを迎えた3泊4日の研修旅行。長いようで短く、そして26回生で過ごした一番濃い時間だったと私は思う。半ばゆるんでしまったときもあったが、無事終えることができて良かった。今回の研修旅行に関わってくださった全ての方に感謝しかない。

3組 端口 弓萌

緊急事態宣言が出るか出ないか、台風が来るか来ないか、コロナウイルスにかかるかかからないか、緊張の抜けない4日間だった。結論から言えば、台風はこなかったし、緊急事態宣言の影響も受けなかった。コロナウイルスにかかっているかどうかはまだ分からないが今のところ体調は万全で、充実した研修旅行だった。全体を通して移動がとても多かったが、鹿児島県であるということを鑑みれば仕方のないことだったと思う。そんな研修旅行で最も印象深いのは2日目の選択研修だ。私は白谷雲水峡&リバーカヤックのコースに参加した。もののけ姫の舞台になったという場所で作品の雰囲気を感じる森だった。空気がとても澄んでいて、自分の高校も同じ山の中ならいっそこれくらい自然に囲まれていればいいのと思った。ガイドの方いわく、見られたらラッキーというヤクシカを見ることができた。少し小柄で、親鹿と2歳の小鹿の大きさが大差なかった。父親は子育てをしないらしい。薄情な奴だ。この辺りで、ガイドの方が水が飲めるくらいきれいだとアピールするようになったので飲んでみると、とてもやわらかい水だった。硬度が10程度らしい。二股に分かれた杉の根を通った。自分としては5時間の往復で一番印象に残った木だ。自分が少し小さくなったのかと錯覚するような森だった。リバーカヤックは転覆に怯えながら川を上り、下った。白谷雲水峡よりも大変だった。休むことのできない上りでは、ただでさえ流され気味なのに急に流れの速い所に行き着いた。正直絶望した。どうしてみんなが前へ進めているのかが分からなかった。やって来たインストラクターの方に連れられようやく超えられた時に、今が研修旅行の山場だったと確信した。後の2日を経てもそれは変わらなかった。

大変な状況下での3泊4日の研修旅行、台湾から鹿児島に変更になって少しがっかりしていたが楽しく良い経験になった。



4組 大岡 咲稀

今回の研修旅行にて最も心に響いたのは3日目に訪れた知覧特攻平和会館だ。

知覧市に入るや否や目に入る沢山の灯籠。特攻勇士の数1036名分の慰霊灯籠を立てる計画が昭和62年に始まり、現在では1290基建立しているとのことだった。言葉では上手く言い表すことができないが、空気感がどこか違っていて気が引き締まる思いがした。

公演では特攻について歴史的背景から個人の心情に至るまで学ぶことが出来た。いくつか既知の情報もあったものの、当たり前だが教科書や資料集とは言葉のおもみが違いすぎた。例を挙げるとするならば、講演会中盤に説明を受けた特攻の仕方(やり方)が特に印象的だった。非情な言い方だと、片道分の燃料を積んだ戦闘機に人が乗り体当たりで敵に突っ込む、とそれだけになってしまう。ただそこに乗っていたのが自分自身と同年の少年だったと知った時、その現実の惨さに思わず涙してしまった。当時と今では状況が違い性別も違うため有り得ない想定となってしまうが、もし私が明日国のために命をかけろと言われたとしても、そう簡単に踏ん切りをつけることができない。どうにかして逃げ出すに違いない。ましてあの新聞の少年のように笑顔で写真に写ることは到底無理だろう。可哀想に思うこともおかしいし感謝するのも少し違う気がするが、ただただ勇敢さに脱帽した。

展示の方はあまりにも思うことが多すぎるため一つだけ書き記すとすれば1番初めに何故か惹かれて読んだ1通の手紙のことだ。その手紙は茨城県出身の21歳の方が両親に向けて書いたものである。その方の手紙は国を護れることを誇りに思い特攻を志願したとのことから始まり最後は両親への謝罪、何も返せなくて申し訳ない、という内容だった。国を守るということは間接的に見れば両親を守ることに繋がる。必ずしも守れるという訳では無いが何も返せない訳では無いはずである。その手紙の背景に私には到底計り知れない思いが隠れているに違いないが、直接恩返しが出来ないことであったり、21という若さで命を失ってしまうことなど、悔いが、少なくとも両親に対してあったのだろう。負の感情を書くのではなく謝罪を記したその方の思いに色んな感情を抱いたが自分の涙が邪魔をして結論を出すことが出来なかった。

毎日学校に行けていること、半年後1年後5年後10年後の将来に夢をもてていること、生きていること。これらは今を生きる私たちにとっては普通の日常だがほんの数十年前はある意味有り得ない、当たり前ではなかった。改めて命の重みや日々当たり前のようにあることの有り難さについて考えることが出来た。

在り来りな感想になってしまったことが申し訳ないほど大変多くのことを学ぶことができ本当に良かった。



5組 浦野 百華

私の拙い文章で、この複雑な心境と厳粛な事実を書ききる自信がなく躊躇したが、知覧特攻平和会館の追憶なしにこの旅行を語れるとは思わない。現代でも変わらず直筆の手紙は気持ち伝わりやすい一つの手段だと思っている。だから私は特攻隊の方々がしたためた手紙を涙なしで見る事が出来なかった。29歳の父から文字も読めない年齢の子供に「お馬にはなれませんけれども」とあったり、23歳の大尉から許嫁に読みたい本や見たい画を述べた最後の欲として「智恵子、会いたい、話したい、無性に」とあったのを見て、心苦しさや胸騒ぎというか私の語彙では表せない気持ちが押し寄せて、涙が止まらなかった、泣くしかできなかった。私が当たり前に生きてきた17年間を特攻の為の勉強や訓練に費やし、突撃の3日前には薄暗く、苦しい三角兵舎で過ごした少年らがいること、その写真に笑顔があったこと、どうしようもなく辛かった。

広島に住んでおり、小さな頃から戦争を学んできたつもりだったが、数年超しても今の私は無力で、虚しさと心苦しさをを感じる事しか出来なかった。知覧平和会館に現存している記録は多くの方が目にすべきで、風化させてしまってはならない。どうしても戦争関連のお話は苦手で、何年間か目を背けてきたが、向き合って考える事が、今の私の精一杯の出来る事だと考える。



今後の行事予定

6/4(金)	6校時(14:10～15:00) 授業参観(予定) 7校時(15:10～16:00) 進路講演会および 進路説明会(特別推薦について等)(予定)
6/5(土)・6(日)	進研総合学力マーク模試 <i>(7月の三者面談はこの模試の結果を使います)</i>
6/29(火) 7/2(金)～7/8(木) 7/10(土)・11(日)	創立記念日 第2回定期考査 進研記述模試 <i>(6月のマーク模試とドッキングの判定)</i>
7/13(火) 7/15(木)・16(金) 7/20(火)	特別推薦(志望理由書提出締め切り) 球技大会 特別推薦委員会
7/26(月)～8/27(金) 7/26(月)～7/30(金) 8/8(日) 8/20(金)～8/27(金) 8/26(木) 8/30(月)・31(火)	夏季休業 前期補習 三者面談 全統マーク模試(希望者 校外) 後期補習 第2回全統記述模試(希望者) 課題考査
9/2(木) 9/3(金) 9/4(土)・5(日) 9/11(土) 9/17(金) 9/29(水) 9/30(木)～10/1(金)	大学入学共通テスト出願説明会 推薦希望者説明会 第1回共催マーク模試 特別推薦入試基礎学力調査 特別推薦候補者合否判定委員会 前期終業式 秋季休業